

オリバイン BPS 6080TFK

1. 特徴

2液硬化型アクリル系粘着剤です。
BPS 5375 のシックハウス対策品です。

2. 性状

	主剤 < BPS 6080TFK >	硬化剤 < BHS 8515 >
外観	淡黄色透明	淡黄色透明
不揮発分	45.0 ± 1.0 %	37.5 ± 1.0 %
粘度	8500 ± 1500 mPa·s	—
溶剤	酢酸エチル	酢酸エチル

(粘度: B型 #3/12min⁻¹ at 25°C)

3. 使用方法(例)

配合 : 主剤 1Kg / 硬化剤 25g

塗布量 : 市販ポリウレタンフォーム 約 65g/m² (dry)
: 市販ポリエチレンフォーム 約 55g/m² (dry)
: 市販ポリエステルフィルム 50μm 約 25g/m² (dry)

乾燥 : 100°C-2min 熱風オープン

熟成 : 塗工後、23°C-50%RH、7days

4-1. 性能(発泡体基材)

<基材:ポリウレタンフォームエーテルタイプ(ECS10t)>

試験項目				BPS 6080TFK	BPS 5375
塗布量 [g/m ² ·dry]				65	
粘着力 [N/25mm]	23°C-50%RH	SUS	20min	7.3	7.2
		PE	20min	4.9	4.9
	0°C	SUS	20min	12.7	12.7
		PE	20min	7.2	7.1
保持力 [mm/3,600sec]	40°C-500g	SUS		NC	NC
ボールタック [#]				23	23
初期タック [N/25mm]	23°C-50%RH	10g – 3sec		4.3	4.3
	0°C			0.9	0.9
昇温保持力 [°C]	38°C~3°C/5min-310g	SUS		78	76
曲面保持力	70°C	15mmφ PP		4.5	4.5
		30mmφ PP		5.0	5.0
曲げ貼り	23°C-50%RH-24hrs → 80°C-4hrs	PP		○	○
		PE		○	○

※曲面保持力と曲げ貼りの評価基準は別紙参照のこと

* NC:ノンクリーブ

<基材:ポリエチレンフォーム電子線架橋タイプ(ソフトロン 3002)>

試験項目				BPS 6080TFK	BPS 5375
塗布量 [g/m ² ·dry]				55	
粘着力 [N/25mm]	23°C-50%RH	SUS	20min	13.8 FF	13.7 FF
		PE	20min	7.3	7.2
	0°C	SUS	20min	14.1 FF	13.9 FF
		PE	20min	10.9 FF	10.8 FF
保持力 [mm/3,600sec]	40°C-500g	SUS		NC	NC
ボールタック [#]				12	12
初期タック [N/25mm]	23°C-50%RH	10g – 3sec		3.4	3.4
	0°C			0.6	0.6
昇温保持力 [°C]	38°C~3°C/5min-310g	SUS		105	104
曲面保持力	70°C	15mmφ PP		4.5	4.5
		30mmφ PP		5.0	5.0
曲げ貼り	23°C-50%RH-24hrs → 80°C-4hrs	PP		◎	◎
		PE		◎	◎

※曲面保持力と曲げ貼りの評価基準は別紙参照のこと

* FF:フォーム体破断 NC:ノンクリーブ

<試料作成条件>

- 配合 : BPS 6080TFK / BHS 8515 = 100 / 2.5
- 剥離紙 : ポリラミグラシン紙セパレーター
- 基材 : ポリウレタンフォームエーテルタイプ(ECS10t)
ポリエチレンフォーム電子線架橋タイプ(ソフトロン 3002)
- 塗工 : 弊社テストコーターにて転写塗工
- 塗布量 : ポリウレタンフォーム 約 65g/m² (dry)
ポリエチレンフォーム 約 55g/m² (dry)
- 乾燥 : 90°C-1min (乾燥炉長 3m)
- 熟成 : 塗工後 23°C-50%RH、7days

4-2. 性能(フィルム基材)

<基材:ポリエステルフィルム 50μm>

試験項目				BPS 6080TFK	BPS 5375
塗布量 [g/m ² ·dry]				25	
粘着力 [N/25mm]	23°C-50%RH	SUS	initial	16.3	16.2
			24hrs	19.1	18.3
		PE	initial	7.4	7.2
			24hrs	8.1	8.2
保持力 [mm/70,000sec]	80°C-1Kg	SUS		0.6	1.0
ボールタック [#]				5	5
定荷重剥離	80°C	SUS	2hrs	4mm スレ	6mm スレ
		PE	2hrs	10mm スレ	13mm スレ

<試料作成条件>

配合 : BPS 6080TFK / BHS 8515 = 100 / 2.5
 剥離紙 : ポリラミグラシン紙セパレーター
 基材 : 市販ポリエステルフィルム 50μm
 塗工 : 弊社テストコーターにて転写塗工
 塗布量 : 約 25g/m² (dry)
 乾燥 : 90°C-1min (乾燥炉長 3m)
 熟成 : 塗工後 23°C-50%RH、7days

*本資料記載データは弊社試験に基づくものでありますが、使用された場合の性能を保証するものではありません。ご使用に際しましては、ユーザー各位の使用条件で事前確認の上、ご採用いただきますようお願い申し上げます。

5. チャンバー法による放散量について

(試料作成条件)

塗布量は約 65 g/m² (dry) で塗工。

試料作成条件は上記<フィルム基材>に準じる。

(試験条件)

JIS A 1901:2003 「建築材料の揮発性有機化合物(VOC)、ホルムアルデヒド及び他のカルボニル化合物放散測定方法—小型チャンバー法」に準拠して実施。

(分析結果)

JIS A 6921 に準じ、体積 17.4m³ の室内空間の壁紙(面積 24 m²)に使用した場合の各対象物質の気中濃度を以下に算出。

上段: µg/g(粘着剤 dry1g 当たり) 下段: ppm

	BPS 6080TFK	BPS 5375	厚生労働省指針値
ホルムアルデヒド	ND(<1.96) ND(<0.0016)	ND(<1.96) ND(<0.0016)	100 0.08
アセトアルデヒド	ND(<3.92) ND(<0.0024)	ND(<3.92) ND(<0.0024)	48 0.03
トルエン	ND(<0.84) ND(<0.0002)	17.92 0.0048	260 0.07
o-,m-,p-キシレン	ND(<0.84) ND(<0.0002)	ND(<0.84) ND(<0.0002)	870 0.20
エチルベンゼン	ND(<0.84) ND(<0.0002)	ND(<0.84) ND(<0.0002)	3800 0.88
スチレン	ND(<0.84) ND(<0.0002)	ND(<0.84) ND(<0.0002)	220 0.05
p-ジクロロベンゼン	ND(<0.84) ND(<0.0001)	ND(<0.84) ND(<0.0001)	240 0.04
テトラフェン	ND(<0.84) ND(<0.0001)	ND(<0.84) ND(<0.0001)	330 0.04
フタル酸ジブチル(DBP)	ND(<0.84) ND(<0.0001)	ND(<0.84) ND(<0.0001)	220 0.02
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル(DEHP)	ND(<1.4) ND(<0.0001)	ND(<1.4) ND(<0.0001)	120 0.0076
クロビリス	ND(<0.002) ND(<0.0001ppb)	ND(<0.002) ND(<0.0001ppb)	1 0.07ppb
ダイズン	ND(<0.00025) ND(<0.0002ppb)	ND(<0.0025) ND(<0.0002ppb)	0.29 0.02ppb
フェノール	ND(<1.12) ND(<0.0001)	ND(<1.12) ND(<0.0001)	33 0.0038

6. 使用上の注意事項

- 保存方法 : 屋内にて直射日光を注意して保存
 取り扱い : 危険物につき火気厳禁
 使用の際は十分攪拌してください
 配合 : 水分混入注意

7-1. 発泡体試験方法

<粘着力>

試料と被着体を 30 分以上測定雰囲気下に放置してから貼り合わせ、2Kg ロールで 1 往復圧着後測定する。測定は引っ張り試験機を用い、90 度方向へ 50mm/min の速度で引き剥がし、その強度を表示する。

- 試料サイズ : 巾 25mm × 長さ 100mm
 被着体 : SUS 板、PP 板
 初期 : 圧着後、測定雰囲気内に 20 分放置してから測定する。
 測定雰囲気 : 23°C-50%RH、0°C

<保持力>

試料を 23°C-50%RH 内で被着体に貼り合わせ、2Kg ロールで 1 往復圧着する。貼着試料は測定雰囲気内で 20 分放置後荷重を掛け、落下する迄の秒数又は一定時間に於けるクリープ状態を表示する。

- 試料サイズ : 巾 25mm × 長さ 100mm
 貼着面積 : 巾 25mm × 長さ 25mm
 被着体 : SUS 板
 測定雰囲気 : 40°C
 荷重 : 500g

<ボールタック(J.DOW 法)>

傾斜角 30 度で助走 10cm 糊面 10cm の試料にスチールボール(1/32~32/32 インチ)を転がし、糊面の中央付近に停止するボールの径の番号を表示する。測定雰囲気は 23°C-50%RH で実施する。

<初期タック>

幅 25mm × 長さ 50mm に切断した試料を、被着体に粘着面が上になるよう貼り合せ、引っ張り試験機の下部チャックに取り付ける。上部チャックには、重量 10g の分銅(サイズ:測定面 1 cm²)を下げ、自重のみで 3 秒間粘着面に接着させてから、200mm/min の速度で試料を引き剥がしその強度を表示する。分銅は測定毎に酢酸エチルでふき取る。

<昇温保持力>

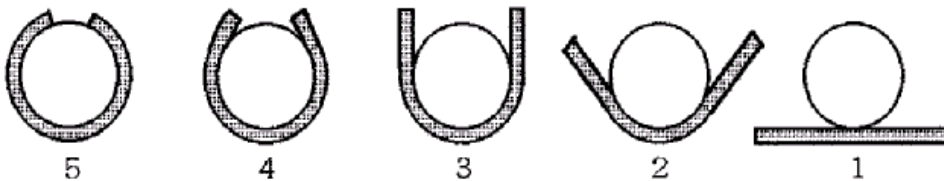
試料を 23°C-50%RH 内で被着体に貼り合わせ、2Kg ロールで 1 往復圧着後、15 分放置する。貼着試料は 38°C 雰囲気中で荷重を掛け、15 分間放置してから、5 分間で 3°C ずつ昇温してゆき、試料が落下するときの温度を表示する。

試料サイズ	:	巾 25mm × 長さ 100mm
貼着面積	:	巾 25mm × 長さ 25mm
被着体	:	SUS 板
測定雰囲気	:	38°C ~ 3°C / 5min
荷重	:	310g

<曲面保持力>

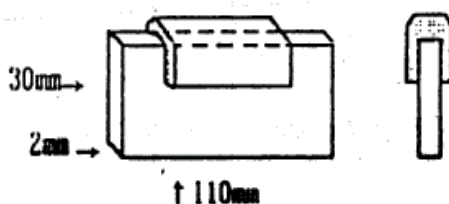
試料を各被着体(丸棒)に貼り合わせた直後、70°C で 24 時間経時し、試料の浮き、剥がれ状態を観察する。

試料サイズ	:	巾 20mm × 長さ 被着体の円周の 9/10
被着体	:	ポリプロピレン棒 15mm φ、30mm φ



<曲げ貼り>

巾 25mm × 長さ 100mm に切断した試料を下図の様に各被着体に貼り合わせ、2kg ロールで 1 往復し、23°C -50%RH に 24 時間放置する。その後 80°C で 4 時間の経時を行い、試料の浮き、剥がれ状態を観察する。



【評価基準】

- ◎ : 完全に貼着され全く浮きのないもの
- : 端部の浮きが 3mm 以内のもの
- △ : 端部の浮きが 3~5mm 以内のもの
- × : 端部の浮きが 5mm 以上のもの
- × : 端部の浮きが片面○、片面△のもの

7-2. 一般試験方法

<粘着力>

試料と被着体を 30 分以上測定雰囲気下に放置してから貼り合わせ、2Kg ロールで 1 往復圧着後測定する。
測定は引っ張り試験機を用い、180 度方向へ 300mm/min の速度で引き剥がし、その強度を表示する。

試料サイズ	:	巾 25mm × 長さ 100mm
被着体	:	SUS 板、PE 板
初期	:	圧着直後に測定する。
永久	:	圧着後、測定雰囲気内に 24 時間放置してから測定する。
測定雰囲気	:	23°C-50%RH

<保持力>

試料を 23°C-50%RH 内で被着体に貼り合わせ、2Kg ロールで 1 往復圧着する。貼着試料は測定雰囲気内で 20 分放置後荷重を掛け、落下する迄の秒数又は一定時間に於けるクリープ状態を表示する。

試料サイズ	:	巾 25mm × 長さ 100mm
貼着面積	:	巾 25mm × 長さ 25mm
被着体	:	SUS 板
測定雰囲気	:	40°C
荷重	:	1Kg

<ボールタック(J.DOW 法)>

傾斜角 30 度で助走 10cm 糊面 10cm の試料にスチールボール(1/32~32/32 インチ)を転がし、糊面の中央付近に停止するボールの径の番号を表示する。測定雰囲気は 23°C-50%RH で実施する。

<定荷重剥離>

試料を 23°C-50%RH 内で被着体に貼り合わせ、2Kg ロールで 1 往復圧着する。貼着試料は測定雰囲気内で 20 分放置後荷重を掛け、2 時間後の剥がれ距離および破壊モードを確認する。

試料サイズ	:	巾 25mm × 長さ 100mm
貼着面積	:	巾 25mm × 長さ 30mm 以上
被着体	:	SUS 板、PE 板
測定雰囲気	:	80°C
荷重	:	100g

